

令和８年度第１回和歌山市廃棄物減量等推進審議会 記録

日時：令和８年７月２４日（金）午後２時～午後３時３０分

場所：和歌山市勤労者総合センター ６階 文化ホール

事務局から開会あいさつ

局長あいさつ

委員、市（事務局）出席者紹介

資料確認

（会長）

気候変動が待ったなしだなという状況が日に日に高まっています。

気候変動に関して言うと、1992年に地球サミットがあって気候変動枠組条約が締結され、30年以上経って、なかなか抜本的な改革が進んでいないことを実感しています。

環境対策に関して和歌山県では３月に第６次和歌山県環境基本政策が制定されました。

基本政策のなかでも廃棄物に対する方向づけが出されたタイミングであり、対策を先送りにせずに着実に確かな実行計画を作っていくちょうど良い機会だと思いますので、さまざまなご意見を頂戴できればと思います。早速、議題に移ります。

今回の議題は、令和７年度の実績報告、第３次和歌山市一般廃棄物処理基本計画の策定、粗大ごみ有料化の検討状況についてなどです。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただけることを期待します。

早速、議題１について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

（議事１ 第２次和歌山市一般廃棄物処理基本計画期間における本市のごみ行政（７年度実績報告）について 事務局担当説明）

（会長）

ありがとうございました。それでは議事１について、ご意見、ご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

（委員）

周りの方から聞くと、紙類（小さな箱、トイレットペーパーの芯、サランラップの芯）を一般ごみに出している方もいるようです。紙ごみとして出すというようなチラシ等を作成して、市民の皆様知ってもらえるとよいのではと思います。

（会長）

確か和歌山県内のデータでも和歌山市の紙ごみの排出量が大きかったデータを見た記憶があります。紙ごみの対策をどういうように重点的に進めて行くか、必要性や状況を教えてください。

（事務局）

家庭系ごみの細分別をおこなっていて、一般ごみのなかで資源化できるもの等について調査をし

ていますが、調査のなかでも紙ごみが多く含まれています。今後についても、市民の皆様に対して、市報わかやま等を通じて、啓発を強化していきたいと思います。

（会長）

回答をいただくのは容易でないことを承知のうえで申し上げますが、図2について目標達成に至っていない、乖離が大きい点について、次の計画に繋げるにあたり、何が原因で達成できていないか、どこに改善の余地があるのかという現状認識を打ち出していくと、次の計画策定の参考情報になるかと思います。

同様に3ページ図3の下に家庭ごみの排出量がゆるやかに減少している要因として、ごみ減量推進員制度の導入や出前講座の実施による取り組みを挙げていますが、取り組み情報から一步踏み込んで、厳密な因果関係は分からないかもしれませんが、それらの活動によって水切りがどれくらい進んだかを推察できるような実データを提示することが、次の計画づくりでは大事ではないか、あるいは次の計画づくりでは、指標を設定して客観的なデータを計測する、といったことも含めて基本計画に反映すればよいと思います。コメントとします。

（委員）

紙ごみについては、自分も日ごろから（自治会の）ごみ出しを見ていて、やはりまだ（一般ごみに含まれる）有効に活用できる紙ごみは非常に多い印象です。自治会内で、一般ごみをサンプリングして、住民の皆様が集まってもらって、内容や分類を見てもらう機会を作りたいと思います。まだ使える紙ごみが見受けられるのは、和歌山市全体でも同様の傾向があると思います。サンプリングするような動きを自治会だけではなく市内に展開して具体的に考えられれば良いと思います。

（会長）

紙ごみの分別収集のポテンシャルは高そうだというご指摘をいただきました。自治体から全市に展開するということに対してコメントがあればお願いします。

（事務局）

2年に1回、家庭系一般ごみについて調査をしているなかで、平成28年度は一般ごみに資源が含まれている割合が約20%ありました。そこから平成30年度には15%、令和2年度に少し割合があがり約18%、令和4年度で16%、令和6年度には15%未満と年々減ってきていますが、まだまだ資源化が見込める紙ごみ、雑がみは多く含まれているのが現状です。分別の徹底と資源化を市が進めることがごみ減量につながると考えます。

（会長）

分別調査の詳細データが入り次第、見させていただきたいと思います。

資料1、資料2は切り分けられない、連動する部分があると思いますので、追加のご質問等があれば、議題2のなかでご指摘いただければと思います。

（事務局）

（議事2 第3次和歌山市一般廃棄物処理基本計画の策定 事務局担当説明）

（会長）

第3次和歌山市一般廃棄物処理基本理念に対するアンケートにご記入いただき提出をお願いします。ただいまの説明に対してご意見があればお願いします。

（委員）

この委員になり、家でも、どうしたらごみが減るかを考えて、2週間のごみの統計をいつもとっています。2週間でだいたい45リットルのごみが4袋出ます、そのうち雑がみが2分の1袋。全部で200リットルのうち12.5%が雑がみだという計算になります。この雑がみの分がなくなれば、ものすごく早く目標が達成できると考えます。和歌山市はプラスチックごみも（一般ごみと）一緒に捨てています、プラスチックも分類している市町村も多いなかで、和歌山市でもプラスチックを分類すれば、もっともってごみが減ると思います。雑がみに関して言えば、何に入れて出したらいいか分かりづらい、雑がみ袋も配布されなくなってしまったという背景があり、一般ごみの袋に入れると一般ごみと間違えて回収されないのではと思い、紙袋に入れて出していますが、自治会内で雑がみを出しているのは、うち1件だけです。行き届いてないと思います。

つれもて～しよらについては、和歌山の良いところではありますが、誰かひとりがしなかったら、つれもて～になりません。つれもて～しやんところになる傾向が高いと思います。しないといけない！という強い意思を出した方が良いと思います。ごみの出し方に関して市民は楽な方に向かいがちだと思うので、市の雑がみに対する考え方は、出してはいけないというように進めないと伝わりにくいと思います。

余談にはなりますが、先日、オイルヒーターを処分したく、油を抜いて青岸ストックヤードに持って行ったら油を抜かなくて良いと言われました。いろいろ捨て方について調べたつもりでしたが、やはり知らないことは多いと実感しました。市民の皆様の中には「雑がみ」と書いているけど何のことか分からない方もいるかもしれない。雑がみ専用の入れ物等があれば、ここに入れると良いと分かる、その他のPR等も考えれば、ごみ減量ができると思います。

（会長）

ここでも雑がみがキーワードとしてあがっています。どう出したらよいか、どう分別していただくかという仕組み、仕掛けを市がセットで提示しないと紙ごみの分別収集は難しいというご意見をいただきました。

かつては雑がみ袋を配布していた背景を含め、今後どういうふうに考えているか、お話しください。

（事務局）

雑がみについて、昔は新聞をとっている方が多くいて間に挟んで出していましたが、今は新聞を出す方が減り、段ボールがかなり多くなっています。紙ごみは十字に縛って出してくださいと啓発していますが、十字に縛ると雑がみがまとまっていないので紙ごみに出しにくいという背景があります。

今後はこういった形で市民の方々に理解していただけるかを検討し、啓発活動に力を入れたいと考えています。

（会長）

私も紙袋等に雑がみを入れて出しています。しかしながら、レジ袋有料化に伴い、レジ袋の購入を断る習慣がつくと、紙袋も入手しなくなりました。このように発生抑制の習慣づけが進めば進むほど、紙ごみが出しづらくなるということが起こりかねない。そのような事情も含み、どう分

別して出していくか、アイデアをお聞かせください。

（委員）

私は、手提げの紙袋に雑がみ、小さい紙などを入れて、いっぱいになったら出すようにしています。

（委員）

雑がみは本当に出したら悪いものかと思います。企業では、焼却炉で燃えるごみを燃やして熱で回収しています。

家庭から出る雑がみ（カレーの外箱等）は一般ごみとして出して、青岸エネルギーセンターで焼却するときの燃料、ガス代が減る、そういう見方もあるのではないかな。

和歌山市としては水切りを推奨していますが、なかなか水切りをしている人は少ないと思います。子どもたちや女性の団体の教育や学習に広め、水切りを広めてはどうか。わざわざ紙を集めるのではなく、まず水切りに特化して進めたほうが良いのではと思います。

（会長）

和歌山市はエネルギー回収をしていますので、バランスよく、燃えるごみから発熱量の高い資源がなくなっても困る。一方で、分別しないという文化が定着してしまうのも困る。重点的に水切りを優先する方が廃棄物の重量も減るし、燃焼効率も高まるというご意見かと思います。

（委員）

プラスチックは燃やすとCO₂が出ますが、紙は紙になるまでCO₂を捨てています。

青岸エネルギーセンターでもそのようなことをPRして進める方が良いと思います。

（会長）

紙ごみは、一応、カーボンニュートラルの資源という位置づけになると思います。

（事務局）

紙は青岸エネルギーセンターで燃やしていません。雑がみではなく、プラスチックごみに関して言うと、平成28年度から一般ごみの分別に変え、青岸エネルギーセンターで燃やし、ごみ発電をしています。

今後につきましては、国の指標でもあるように、ごみを減らすというよりも、いかにごみを燃やさないかということを示しています。市でも今後はごみの減量を進めるとともに、いかに燃やさないか、今後は現状燃やしているプラスチックを資源にまわす、プラスチックに限らずそれ以外の資源についてもどんどん生まれ変わってくると考えています。資源分別の追加、収集等を検討する方向で、次の和歌山市一般廃棄物基本計画には、ごみを燃やさないように目標値を定めて進めて行きたいと思っています。

（会長）

市としての方針をご提示いただければと思います。

（委員）

基本計画の説明で、（1人1日当たりのごみ排出量が）729グラムという目標値について、何らかの根拠があって積み上げられた数字だと思います。ではその729グラムを実現するために、今から数十グラム下げないといけない。下げるために、どういう具体的な対策に基づいて、何をすれば何グラム減量できる等の根拠があるのか。今までの感じでは、実現に至る具体的な道筋が見え

できません。さきほど委員がおっしゃたように自宅のごみの分析で何%の紙ごみを減らすことができる、というようなデータの積み上げによって、この目標が何年に達成できるといった絵が描けると良いと思いますが、なかなか詳しいデータの積み上げが見えてきません。

ぜひ、具体的なデータを積み上げて、何年に達成できるという方針で整理していただけると嬉しいです。我々もできるだけ協力したいと思います。

（会長）

他の自治体の状況を見ると、どの対策がいかほどの効果を生むかを厳密に計るのは非常に難しいと思います。

いろいろな施策をとりあえずおこない、すべてがどのような影響があったかは分からずブラックボックス状態ですが、結果こうなりましたというように、自治体はどこも同じ課題を抱えていると思います。一気にモニタリングをして明瞭化するのには難しいと思います。

それぞれの自治体がどういう取り組みがどういう人々の行動変容につながり、結果としてどのくらいごみ削減につながったかということモニタリング、取り組み、実験を少しずつ続けて社会全体で共有しないと進んでいかない、と思います。問題意識を常に持って、次の計画づくりでは対策を実行して終わるのではなく、どういう行動、どういう人々の意識をモニタリングすべきかを含めて考え続けることが大事だと思います。

（事務局）

ご意見をいただいたうえで有効な施策を第3次和歌山市一般廃棄物処理基本計画に盛り込んでいきたいと考えています。

（会長）

4ページ下の基本理念案について、アンケートを提出してくださいと申した手前、言いづらいのですが、次の第3次和歌山市一般廃棄物処理基本計画の大きな方向性や、例えば紙ごみ、水切り等、次の5年10年、何が重点的になってくるか、何に基点を置いて施策を進めるかのメッセージを受けてからでないと決めづらいように思います。現時点で、つれもて～という3つの案がどういう思いをもって出てきたのか、ご説明いただけると回答の参考になると思います。

（事務局）

つれもて～については第1次、第2次で使用している基本フレーズであり、一緒に～しましょうということを活かしつつ、これまではごみ減量、3Rを基本として啓発してきました。しかし、近年はごみを減らすだけでなく、資源を使っていこうという考えに変わってきていますので、循環や資源という言葉を使用しました。

後半については、今後につなげていく、持続可能という考え方が国や県の指標にありましたので、その案を取り入れて今回の3案を挙げました。

（会長）

現時点で、どれが望ましいかという回答はできると思いますが、それで確定とするのではなく、アンケートの結果を踏まえて、基本理念を作り直したりアレンジしていただければと思います。まず、第1次、第2次ではごみを分別、減量しましょうというメッセージがあって、それを分別してごみを減らすだけでなく循環を徹底しなくてはならないという強いメッセージを込めるのであれば、次の計画のなかで循環に関わる数値目標を出すべきです。また②地域の資源につい

ても３ページの第６次和歌山県廃棄物処理計画にも記載のとおり、地域特有の資源を有効に活かそうという基本方針を受けているのであれば、県産の木質資源を生かして、化石燃料の代替として使っていきましょう、プラスチックの代替で使っていきましょうという施策や目標が基本計画の中で具体的に提示されるか、というところが気になるところです。そのようなことをセットで理念をアレンジして提案していただければと思います。

いったん議題２については、以上といたします。追加があれば、議題３のところでご指摘ください。

（事務局）

（議事３ 粗大ごみ有料化の検討状況について 事務局担当説明）

（会長）

具体的に整理していて、合理的に進められるのではと期待しています。

議事３に関して、ご意見、ご質問があればお願いします。

（会長）

細かい言葉遣いについてですが、「ごみの有料化」ではなく、「ごみ処理の有料化」あるいは「ごみ処理」は税金でもともと有料であるので、厳密にいうと「ごみ処理の有料化」と言うよりは、「排出者負担の徹底」等の方が強いメッセージがあると思います。計画書のなかで、言葉としてごみの有料化、ごみ処理の有料化の方が市民の皆様も分かりやすいかと思いますが、政策のねらいとしてカッコ書きで（排出者負担の徹底の移行）等とメッセージを記した方が正しく伝わるかと思います。コメントです。

この件に関して、今、検討している内容で進めてよろしいでしょうか。

大きな前進かと思います。

（委員）

有料化そのものが前進という考えでしょうか。

（会長）

従来よりも進んだと思います。

（委員）

有料化により地域としては弊害というか困った問題があります。山畑や藪のなかにあらゆるものが捨てられて、車で行ける場所、捨てる時・瞬間が（他人から）分かりにくい場所には大量のごみが捨てられています。（リサイクル料金が必要な）リサイクル家電は随所にあります。地域としては非常に困った問題です。料金を払うのが嫌という方が捨てに行きます。

有料化した場合、そのように不法投棄されたものは処理にまわせるかどうか。山奥や川に不法投棄されると個人では処理できるものではありません。有料化するとマナーや道德の問題が出ます。解決法がないと有料化するには弊害があると思います。

ごみの処理については自治会でごみの中身を暴くということをして、誰がやるかは非常に難しい問題です。

また、ごみの量をグラム数で進めているということなので、水分を減らしたらよいのではないか

と思います。

ダイオキシンの問題について、植木、畑の草、きれいにしたいという思いからごみとして出して回収されていますが、堆積して肥料化することもあると思います。一方で都会の場合は、コンポストについても、隣からにおいがするという苦情があるのではと思います。

本当に難しい問題だと思います。

(会長)

有料化すると不法投棄が増えるというのは重要な指摘です。

当然ながら有料化に舵を切った段階で、不法投棄対策をすることや、対策コストが大きくなりすぎると問題となるので、セットでご検討いただきたいと思います。なかなか、不法投棄の対策は啓発活動にとどまってしまうがちですので、難しいですが、きちんと罰則規定をもうけないと意味のある対策にならない気がします。起こりうる事態を想定した計画を進めていただきたいと思います。不法投棄対策で検討している事項について、現時点でありますか。

(事務局)

有料化となれば、どの中核市でも必ず不法投棄対策は考えることです。今回の粗大ごみの有料化について、63市ある中核市のなかで有料化が進んでいないのは和歌山市を含め3市のみです。前回議論した内容から、大きく見直すのはかなり時間がかかるので、限定的な品目であればすぐに実行できると考えます。現状、スプリングマット等は市で処理できないので、いったん収集したものを外部にお金を出して処理をしている現状です。

まず、このような品目に限定して、粗大ごみの有料化を早く進めたい。

一方で不法投棄も考えられますので、十分検討のうえ進めたいと思います。

(会長)

最後に議事4 その他 前回審議会以降の施策等報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(議事4 その他 前回審議会以降の施策等報告について 事務局担当説明)

(会長)

議事4について、ご意見、ご質問等があればお願いします。

議事4に対して意見なし

(会長)

ジモティーとの取り組みが着実に進んで、積極的な活用が進んでいることは非常に良い取り組みです。次期計画で大きく打ち出せると思います。

議事1～4をまとめて、何かないでしょうか。

(委員)

チャレンジングなところ、頑張られたところを共有します。

資料2の次期の第3次基本計画策定の3ページについて、これまでは、ごみを減らしましょうと

啓発し、最終ごみの減った量がどれだけであるという報告でしたが、今回は、国の脱炭素や気候変動の対策でごみを燃やすことがCO₂となり気温上昇につながることから、ごみを「燃やしている」量が減ったという報告でした。このように資源循環の政策と気候変動の政策を連動させたことは先進的です。和歌山市は、ごみを減らすということは気候変動対策、脱炭素と同じことを言っているということが効果的であるので、きちんと説明すると良いと思います。

4 ページ、第 1 次基本計画では混ぜるとごみだに分けると資源であるということから分別しなさいという計画でした、第 2 次では、和歌山市内でゴミが減らないので水切りをして脱水すると熱効率が上がりエネルギー回収がしやすくなることから、水切りを中心に啓発をして、エネルギー回収とごみ処理をどう連動させるかに力を入れていました。第 3 次ではアンケートにもあるように、価値のないごみを使える人に回すという循環とか資源という言葉が出ました。

循環を強く押し出しながらも、5 ページ右上でこれまでの柱を踏襲したところがトーンダウンとなり弱点となっていると思います。

しっかりごみを減量して脱炭素政策と連動していることを言いつつも、資源の指標や資源循環（リユースに近い）、本来価値がないものに価値を与えて本来外に出ないものをループに戻す、ジモティーと連動させることで価値のあるものに変換したということは、ものすごく大きいメッセージです。

この利用量の推移を年々調査し、市民の皆様が活動レベルで再資源化、サーキュラーエコノミーをしていると伝えることが良いと思います。

半年で 1,200 人、ひと月に 200 人くらい、稼働日を見ると、それなりの人がジモティーに来了います。知らない方がまだおられると思うので、もう少し広報することで、強味になると思います。

（会長）

脱炭素につながるというメッセージをしっかり説明してくださいというところと、基本方針等で強いメッセージがトーンダウンしないよう、ジモティーとの連携を強調して重点的にアピールしたり、取り組みのモニタリングを徹底して目標達成に使っていきましょう、ということです。

（事務局）

指標にもあるとおり、いかにごみを焼かないか、イコール資源にまわす、ということです。ジモティスポットについては全国的に言えば、まだスポット数はそう多くありません。

このような活動の場をもう少しアピールしていきたいと思っています。

また、循環といえば、【3】詰め替えパックについても、和歌山市内の企業と連携して資源を燃やすのではなくもう一度詰め替えパックに戻す取り組みについてもPRしていきたいと思います。

（会長）

ぜひ、重点施策のひとつに、ジモティーや詰め替えパックも続けていただきたいと思います。重量で言うと全体に対するインパクトはそう大きくないが、小さいから無理だと思わせないように続けていただき、この取り組みの数値目標等を掲げていただいても良いかと思いました。

（委員）

今日の議事と関係ないが、ごみ袋の大きさは今 45 リットルだけですか。今、一人住まいなので、ごみがそんなに出ない。生ごみは週 2 回出すようにしているが、45 リットルだと大きすぎる。袋

がもったいないと思って、市販のごみ袋を買って、生ごみをだすようにしている。もう少し 20～25 リットルの袋があれば良いのになと思います。

（事務局）

スーパーでよく見かけるのは 45 リットルです。

和歌山市の指定ごみ袋には小もありますが、店頭ではあまり見かけません。おっしゃったようにスーパーのレジ袋でも収集しますので、代用していただければと思います。

（委員）

市指定の袋ではなくてもよいのですか。

（事務局）

リットル表示のあるものでお願いしています。

（委員）

全体のごみの量としては微小な対象になるかと思うが、最近、熊やイノシシが人里に出てきます。私の住んでいる●●地区では、熊は出ないが、イノシシが出るようになってきて、芋畑を作っている農家の方が被害に遭っています。イノシシによる人災も出ています。このように全国的に熊やイノシシが人里で悪さをし、殺したあとはどう処理するのでしょうか。死体となりごみとなる場合、処理はどのように考えていますか。

（事務局）

ごみの焼却場に動物の焼却炉があります。イノシシについては、猟友会が処理したあと、焼却炉で処分できます。依頼があれば、市の動物の焼却炉で処分することになるだろうと思います。現状、熊の話はありませんが、もし出た場合は、市の焼却炉で焼却できるかどうかを検討することになると思います。

（委員）

今まで、アライグマやイノシシについては猟友会が処理していましたが今はできないようです。

動物病院に持っていくか青岸に自分で持っていかないといけません。

車がないとか、腐敗等の問題があると大変です。

（事務局）

最終、依頼があれば、引き取りにいきます。

（会長）

ほかにご意見はないでしょうか。このあたりで審議を終えたいと思います。

議事 1～4 のまとめは、委員からもありました。各意見を事務局で反映していただければと思います。

議事以外で、ご質問やご連絡事項はないでしょうか。

意見がななかったため、閉会となった。